

ボールの特性レポート BALL REPORT



ボール名	エンバー		投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.490	△RG	0.044	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール		

テストボール：エンバー

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

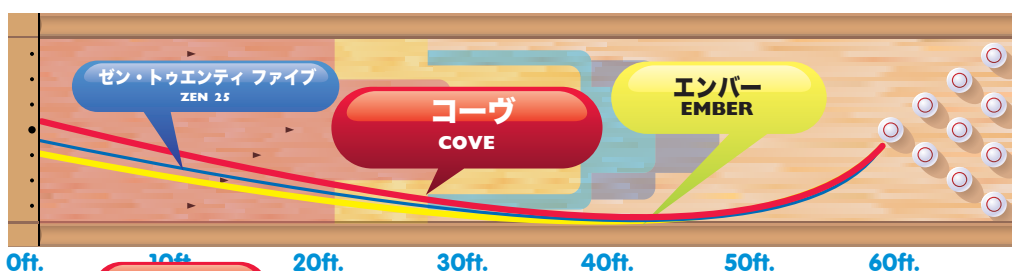
表面加工
☒ 箱出し状態
☐ 加工
☐ ペーパー
☐ ポリッシュ
 研磨剤 番

比較対照ボール：ゼン・トゥエンティファイブ

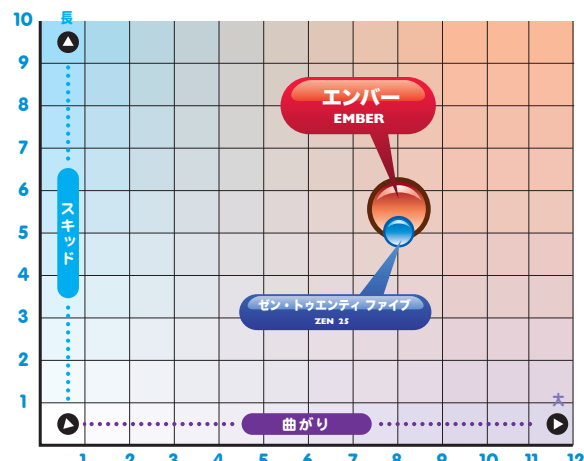
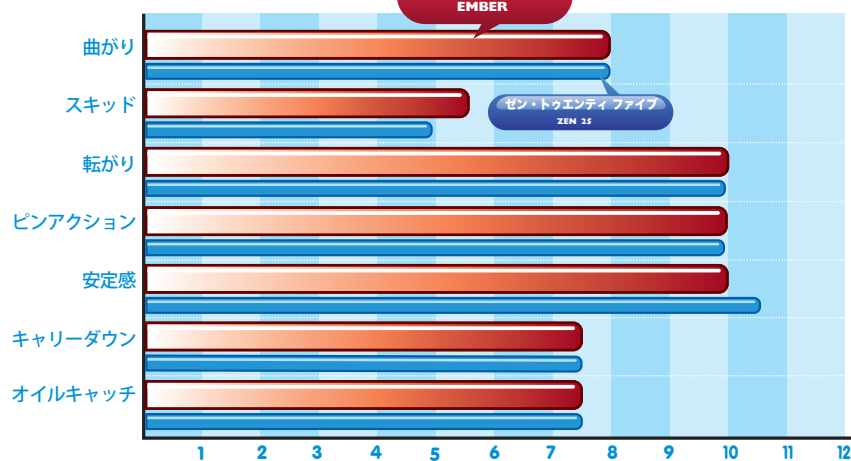
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
☒ 箱出し状態
☐ 加工
☐ ペーパー
☐ ポリッシュ
 研磨剤 番



ヘビー
ミディアム
ライト
バフ



レーンコンディション					バックエンドリアクション					レンジス				
Light Oil	Light to Medium	Medium Oil	Medium to Heavy	Heavy Oil	Smooth	Smooth to Arc	Arc	Arc to Sharp	Sharp Angle	Early Roll	Early to Med	Med-Lane	Med to Late	Late Roll

ボールの評価

800シリーズに新たな風を吹き込む、「COVE(コーヴ)」と「EMBER(エンバー)」の2モデルが登場しました。いずれも共通して採用されたのが、900GLOBALが開発したまったく新しいシメトリック形状の「Magna A.I.コア」。二重半球構造によるこのコアは、非常に安定した転がり、レーン全体を通じた連続性を生み出し、シリーズ内でも最も一貫性の高いボールモーションを実現します。COVEとEMBERは、まさに「コアの完成度」を土台に、異なる表情を持たせた兄弟のような関係といえます。まず「COVE」は、RB 85 ハイブリッドリアクティブカバーストックを使用。手前のオイルでの安定感と、ミッドからバックエンドにかけてのスムーズな曲がりを両立。カバーのバランスが絶妙で、変化しやすいミディアム～ミディアムヘビーコンディションでもラインをキープしやすく、投げた軌道を「そのまま形にできる」安心感があります。

一方「EMBER」は、COVEと同じMagna A.I.コアを内包しながら、RB 82 パールリアクティブカバーを採用。このカバーは、COVEよりも表面の摩擦係数を抑えた分、レーンをスムーズに走り、必要なところで一気に曲がりを生む設計です。つまり、レーンが削れ始めたタイミングや、バックエンドの動きを強調したい場面で活躍し、COVEとは明確な「役割の住み分け」がされています。この2つを同時にリリースする意義は明快です。Magna A.I.コアという信頼性の高い軸を共通化することで、ボウラーは「中身の特性」を理解したうえで、表面素材による動きの違いを自在に使い分けられます。試合中のコンディション変化に対応するうえで、安定型(COVE)と攻撃型(EMBER)を使い分けるといった選択肢は、非常に実践的かつ有効で、新たな選択肢を作れることで、より対応幅を増やせると考えて良いでしょう。

特記事項

COVEは「持続性と操作性」、EMBERは「鋭さと即応性」という特性を持ち、同じコアを軸にしながら、正反対の魅力を持つ2モデル。両者を揃えることでミディアムコンディションの対応力は飛躍的に高まります。